



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月30日

上場会社名 宝ホールディングス株式会社

上場取引所 東

コード番号 2531 URL <http://www.takara.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 柿本 敏男

問合せ先責任者 (役職名) 財務・IR部長

(氏名) 掛見 卓也

TEL 075-241-5124

四半期報告書提出予定日 平成26年2月7日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	159,519	2.9	8,891	△2.9	9,205	△0.4	10,503	117.6
25年3月期第3四半期	155,025	0.7	9,160	△5.8	9,245	△7.5	4,826	14.2

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 23,207百万円 (324.5%) 25年3月期第3四半期 5,466百万円 (111.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	51.86	51.85
25年3月期第3四半期	23.66	23.66

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	242,316	142,764	49.1
25年3月期	207,586	114,318	48.2

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 118,879百万円 25年3月期 100,040百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	—	—	9.00	9.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	209,000	4.0	9,300	1.8	9,600	3.3	9,700	106.9	47.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	217,699,743 株	25年3月期	217,699,743 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	16,364,003 株	25年3月期	14,833,716 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	202,553,399 株	25年3月期3Q	204,014,617 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成25年11月1日発表の連結業績予想の見直しは行っていません。なお、自己株式数の変動に伴い1株当たり当期純利益を変更しております。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

○ 第3四半期決算短信補足資料

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安や株高による消費者心理の改善や、輸出企業を中心とした企業業績の改善に加え、設備投資に持ち直しの動きがみられるなど、緩やかな回復基調を見せております。一方で、新興国経済の減速や、円安による輸入原材料の価格上昇に起因する一般消費財の値上がり、消費税増税前後の需要動向などの懸念材料もあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境のなか、当社グループでは、長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現へ向け、「国内での安定成長を実現するとともに、海外で大きく成長するための事業基盤を拡大する」ことを基本方針とする3カ年の中期経営計画「TaKaRaグループ中期経営計画2013」のもと、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を構築することで、更なるグループ企業価値の向上を目指しております。

国内酒類事業においては、多様化する消費者嗜好に対応したオリジナリティある新製品の開発やブランド育成に注力し、また調味料・酒類事業においても顧客企業に対し、差異化されたユーザーニーズに応える商品提案を行うことにより、売上高の拡大を図っております。

海外酒類事業、日本食材卸事業では、両事業を通じて日本食文化を世界に広げることによって事業成長を加速させることを目指しております。なお、平成25年9月、英国で日本食材卸事業を展開するTazaki Foods Limitedの経営権を取得いたしました。

バイオ事業では、遺伝子工学研究事業、遺伝子医療事業、医食品バイオ事業の3つの領域に経営資源を集中し、業績の向上に努めました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、円安の影響もあり、前年同期比102.9%の159,519百万円と若干の増収となりました。また、売上高の増加により、売上総利益も増加いたしました。原価率の上昇の影響を受け、前年同期比101.8%の61,491百万円となりました。

販売費及び一般管理費は、円安の影響も含めた人件費などの増加により前年同期比102.6%の52,599百万円と増加いたしましたので、営業利益は前年同期比97.1%の8,891百万円と減益となりました。営業外損益は、タカラバイオ株式会社の公募増資の実施等による株式交付費が発生しましたが、持分法による投資利益の増加、前年同期の為替差損が為替差益に転じたこと、社債発行費がなくなったことなどにより若干改善いたしました。この結果、経常利益も前年同期比99.6%の9,205百万円と若干の減益となりました。

特別損益は、タカラバイオ株式会社の公募増資に合わせた同社株式の一部売却により特別利益を計上したことや、固定資産除売却損の減少などにより、前年同期に比べ大幅に改善いたしましたので、税金等調整前四半期純利益は前年同期比213.6%の18,397百万円となり、四半期純利益は同217.6%の10,503百万円とともに大幅な増益となりました。

セグメントの業績の概要は次のとおりであります。

[宝酒造グループ]

当第3四半期連結累計期間の売上高は、新たに連結子会社としたTazaki Foods Limitedの売上高に加え、円安による海外子会社の円貨換算売上高の増加により、前年同期比101.8%の140,850百万円と若干の増収となりました。

品種別には、飲用甲類焼酎の減少が大きかった焼酎が、本格焼酎も含め全般に低調で大幅な減収となりました。一方、平成25年9月より販売ルートを広げたスパークリング清酒<松竹梅白壁蔵「霽(みお)」>が大きく伸ばしたことにより、清酒が増収となり、「焼酎ハイボール」が引き続き好調に推移したソフトアルコール飲料も、新製品の寄与もあり増収となりました。さらに、ワインやウイスキーが好調に推移したその他酒類も増収となりましたが、焼酎の減収の影響が大きく、酒類全体では減収となりました。

しかしながら、その他に含まれる日本食材卸事業が、外貨でも大きく売上を伸ばした上、円安の影響もあり、さらに上述のTazaki Foods Limitedの売上も加わったことにより大幅な増収となり、当セグメント全体でも増収となりました。

売上原価は、原材料の価格上昇や、商品構成の変化による原価率の上昇により、前年同期比102.8%の89,404百万円と増加したため、売上総利益は前年同期比100.1%の51,446百万円と微増となりました。販売費及び一般管理費も運送費や人件費等の増加により、前年同期比101.4%の44,404百万円となったため、セグメント営業利益は、前年同期比92.9%の7,041百万円と減益となりました。

[タカラバイオグループ]

当第3四半期連結累計期間の売上高は、遺伝子工学研究事業における研究用試薬が前年同期を上回り、遺伝子医療事業も好調に推移したこと等により、前年同期比116.2%の16,167百万円となりました。

遺伝子工学研究事業では、主力製品である研究用試薬が、円安の影響もあり増収となりました。理化学機器も質量分析装置等の売上が増加し増収となり、研究受託サービスも増収となりました。遺伝子医療事業では細胞医療用培地・バッグの売上が好調に推移し増収となりました。医食品バイオ事業では健康食品が売上を伸ばしましたが、キノコ関連製品の売上が減少したため減収となりました。

売上原価は、品目別の原価率の違いにより、前年同期比119.5%の7,500百万円となりましたので、売上総利益は、前年同期比113.4%の8,666百万円となりました。販売費及び一般管理費は、人件費及び研究開発費等の増加により、前年同期比111.9%の7,758百万円となりましたので、セグメント営業利益は、前年同期比128.3%の908百万円と増益となりました。

[宝ヘルスケア]

当第3四半期連結累計期間の売上高は、茶飲料PB供給事業の終了により前年同期比63.7%の1,027百万円と大幅な減収となりました。なお、健康食品では主力のフコイダン関連製品が増収となったほか、その後も順調に推移したため、茶飲料PB供給事業を除いた健康食品等での比較では、前年同期比110.2%と増収となっております。また、茶飲料PB供給事業の終了に伴い売上総利益は減少しましたが、販売費及び一般管理費の削減に努めました結果、セグメント営業損益は前年同期間より28百万円改善し、5百万円の営業利益を計上いたしました。

[その他]

報告セグメント以外の「その他」のセグメントの売上高は前年同期比98.0%の5,541百万円となりましたが、営業利益は前年同期比148.0%の201百万円となりました。

品種別販売実績

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	前年同期比
品種	金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
宝酒造グループ			
焼酎	55,840	51,992	93.1
清酒	17,781	18,769	105.6
ソフトアルコール飲料	19,905	21,228	106.6
その他酒類	8,458	9,297	109.9
酒類計	101,985	101,288	99.3
本みりん	11,834	11,655	98.5
その他調味料	6,208	6,658	107.3
調味料計	18,043	18,314	101.5
原料用アルコール等	5,141	5,065	98.5
物流	8,549	8,937	104.5
その他	4,648	7,245	155.9
計	138,367	140,850	101.8
タカラバイオグループ	13,916	16,167	116.2
宝ヘルスケア	1,612	1,027	63.7
その他	5,654	5,541	98.0
事業セグメントに配分していない 収益およびセグメント間取引消去	△4,525	△4,067	—
合計	155,025	159,519	102.9

(注) 販売金額には酒税を含んでおりますが、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は242,316百万円となり、前連結会計年度末に比べ34,729百万円増加いたしました。流動資産は、年末繁忙期による受取手形及び売掛金の増加13,706百万円や、現金及び預金の増加2,979百万円、たな卸資産の増加3,381百万円などにより、前連結会計年度末に比べ20,109百万円増加し、153,394百万円となりました。固定資産では、有形固定資産の増加2,694百万円、子会社の新規取得などに伴うのれんの増加2,698百万円、上場株式の時価評価増加や、余資の一時的運用などによる投資有価証券の増加8,959百万円などにより、前連結会計年度末に比べ14,620百万円増加し、88,921百万円となりました。

負債合計は99,551百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,283百万円の増加となりました。1年内償還予定の社債の償還5,000百万円がありましたが、未払酒税の増加3,109百万円、関係会社株式売却益の発生に伴う未払法人税等の増加3,797百万円などがありました。

純資産は、タカラバイオ株式会社の公募による新株発行に伴う持分変動差額や、四半期純利益などで利益剰余金が14,525百万円増加し、少数株主持分も9,608百万円増加したため、前連結会計年度末に比べ28,446百万円増加し、142,764百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、平成25年11月1日に期初予想の修正を行っております。当第3四半期が終了した時点では、概ね当該連結業績予想に沿って進捗しておりますため、平成25年11月1日公表した連結業績予想は見直しておりません。

2. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	36,789	39,768
受取手形及び売掛金	50,630	64,336
有価証券	15,260	14,979
商品及び製品	21,773	24,388
仕掛品	1,090	1,170
原材料及び貯蔵品	2,841	3,528
その他	4,982	5,353
貸倒引当金	△82	△129
流動資産合計	133,285	153,394
固定資産		
有形固定資産	42,639	45,334
無形固定資産		
のれん	3,767	6,465
その他	1,659	1,792
無形固定資産合計	5,426	8,258
投資その他の資産		
投資有価証券	21,080	30,039
その他	5,364	5,509
貸倒引当金	△209	△220
投資その他の資産合計	26,235	35,329
固定資産合計	74,301	88,921
資産合計	207,586	242,316
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,028	14,516
短期借入金	5,006	5,843
1年内償還予定の社債	5,000	—
未払酒税	9,907	13,017
未払費用	4,698	5,264
未払法人税等	1,996	5,793
販売促進引当金	1,719	2,045
その他の引当金	2,014	1,254
その他	6,023	6,741
流動負債合計	49,394	54,476
固定負債		
社債	25,000	25,000
長期借入金	417	318
退職給付引当金	8,845	8,658
長期預り金	5,626	5,609
その他	3,983	5,488
固定負債合計	43,873	45,074
負債合計	93,268	99,551

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,226	13,226
資本剰余金	3,195	3,195
利益剰余金	90,437	104,963
自己株式	△8,355	△9,856
株主資本合計	98,503	111,528
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,599	7,089
繰延ヘッジ損益	16	401
為替換算調整勘定	△3,079	△140
その他の包括利益累計額合計	1,537	7,350
少数株主持分	14,277	23,885
純資産合計	114,318	142,764
負債純資産合計	207,586	242,316

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	155,025	159,519
売上原価	94,618	98,027
売上総利益	60,407	61,491
販売費及び一般管理費	51,246	52,599
営業利益	9,160	8,891
営業外収益		
受取配当金	348	357
その他	369	445
営業外収益合計	717	802
営業外費用		
支払利息	400	340
その他	233	147
営業外費用合計	633	488
経常利益	9,245	9,205
特別利益		
関係会社株式売却益	—	9,261
退職給付制度改定益	345	—
その他	321	192
特別利益合計	666	9,453
特別損失		
固定資産除売却損	528	103
土地譲渡損	—	121
厚生年金基金脱退拠出金	260	—
その他	508	36
特別損失合計	1,297	262
税金等調整前四半期純利益	8,614	18,397
法人税、住民税及び事業税	3,287	7,151
法人税等調整額	189	422
法人税等合計	3,477	7,574
少数株主損益調整前四半期純利益	5,137	10,823
少数株主利益	311	319
四半期純利益	4,826	10,503

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	5,137	10,823
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	143	2,489
繰延ヘッジ損益	33	387
為替換算調整勘定	152	3,429
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	230
持分変動差額	—	5,847
その他の包括利益合計	329	12,384
四半期包括利益	5,466	23,207
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,119	22,164
少数株主に係る四半期包括利益	347	1,042

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造 グループ	タカラバ イオグル ープ	宝ヘルス ケア	計				
売上高								
外部顧客への売上高	137,774	13,502	1,609	152,886	1,811	154,697	327	155,025
セグメント間の内部 売上高又は振替高	592	413	2	1,009	3,843	4,852	△4,852	—
計	138,367	13,916	1,612	153,895	5,654	159,550	△4,525	155,025
セグメント利益又は損 失(△)	7,582	707	△22	8,267	136	8,403	757	9,160

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、印刷事業などの機能会社グループであります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高は、当社において計上した不動産賃貸収益であります。

(2) セグメント利益又は損失は、セグメント間取引消去89百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益667百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

記載すべき重要な事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造 グループ	タカラバ イオグル ープ	宝ヘルス ケア	計				
売上高								
外部顧客への売上高	140,593	15,711	1,025	157,330	1,866	159,196	322	159,519
セグメント間の内部 売上高又は振替高	257	455	1	714	3,674	4,389	△4,389	—
計	140,850	16,167	1,027	158,045	5,541	163,586	△4,067	159,519
セグメント利益	7,041	908	5	7,955	201	8,156	734	8,891

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、印刷事業などの機能会社グループであります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高は、当社において計上した不動産賃貸収益であります。

(2) セグメント利益は、セグメント間取引消去58百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益675百万円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

記載すべき重要な事項はありません。